





# 台風接近時 自治体HP閲覧しにくく

## 共同回線の容量増加へ

県など協議会

台風19号が県内に接近した12日、防災情報を伝える県内自治体のホームページ（HP）にアクセスが集中して閲覧しづらくなったことを受け、県と県内市町村などをつくる協議会は30日、長野市内で会合を開き、対応策を協議した。

県と各市町村がHP閲覧用に共同利用している回線のアクセス容量を増やす方針を確認した。

共同回線は入り口を1カ所に集約することで、通信履歴を監視してウイルスなどを検知している。各自自治体のハザードマップや河川の水位



降雨量などへのアクセスが県内外から集中し、入り口が詰まって障害が起こったとみられる。

県は12日午後7時ごろ、ア

# 北陸新幹線の車両基地 3カ所全て浸水想定域

国交省

国土交通省は30日、全国の

新幹線車両基地と留置線計28カ所のうち16カ所を、全てが

一部がハザードマップなどに示された浸水想定区域内にあると明らかにした。北陸新幹

線（長野経由）は、台風19号の影響で浸水した長野新幹線車両センター（長野市）を含む

3カ所の関係車両基地全てが浸水想定区域内に含まれる。



クセスしやすいよう画像などを落とし、防災情報を見やすくした緊急用のHPに切り替えた。県内市町村にも同様の対応を求めたという。

小諸市はHPが閲覧しづらくなる前の12日午後、トップページを8月の浅間山小規模噴火後に用意した災害情報に絞った緊急用ページに切り替えたが、それでも一時つながりづらい状態となった。

50秒の浸水が見込まれる。同社は長野新幹線車両センターの浸水を踏まえ対応を検討している。

JR西日本によると、白山総合車両所は「千年に1度」

の降雨で50秒〜3分の浸水が見込まれる。同社は4分の盛り土をして対応している。

国交省によると、16カ所の内訳はJR北海道1、JR東日本6、JR東海4、JR西日本3、JR九州2。白山総合車両所のように、盛り土による地盤のかさ上げや、排水ポンプの設置など浸水対策を実施済みの場所もあるという。

長野市のハザードマップでは、長野新幹線車両センターは「100年に1度の降雨があった場合に5分以上、千年に1度」の降雨の場合に10〜20分の浸水が見込まれる区域に入っていた。国交省は北陸新幹線の被害を踏まえ、全国の鉄道事業者を対象に浸水対策の現状調査を進めている。

# 諏訪南行政事務組合も「可能」災害ごみ受け入れ 県内8団体に

台風19号によって発生した災害ごみの処理が長野市など被災地を抱える施設で追い付いていない問題で、新たに諏訪南行政事務組合（茅野市）が災害ごみの受け入れ可能と県に回答したことが30日、分

県によると、受け入れ可能としたのは、諏訪南行政事務組合、松塩地区広域施設組合（松本市）、湖周行政事務組合（岡谷市）、上伊那広域連合（伊那市）、北アルプス広域連合（大町市）、穂高広域施設組合（安曇野市）、小諸市、北信保健衛生施設組合（中野市）の8団体。受け入れが難しいとした団体は、主に処理能力に余裕がないことを理由に挙げている。

受け入れられるとした団体も地元住民との協議や施設のメンテナンスなどがあり、受け入れ量や時期は未定。今後、被災自治体が団体側と協議し、委託契約を結ぶ。

# 上田電鉄別所線被災の一部区間運行

## 代行バス 国支援検討

### 国交相「前向きに考える」

台風19号で被災し一部区間で代行バスを運行している上田電鉄別所線（上田市、上田一別所温泉、11・6キロ）に対し、国が運行経費への財政支援を検討していることが30日、分かった。赤羽一嘉国土交通相が同日の衆院国土交通委員会で「国が一定の支援ができないか、前向きに考えていく」と述べた。

赤羽国交相は、上田電鉄を説明。支援の検討について「先

はじめ財政基盤が弱い地方鉄 延ばしにするつもりはない。道は「高校生の通学や高齢者 省を挙げてしっかりと具体化の通院の足になっている」としていく」と明言した。

# 市町村被災箇所 県が権限代行を

市町村被災箇所 県が権限代行を

や補助割合などを検討する。別所線では千曲川に架かる鉄橋の一部が崩落。15日から下之郷一別所温泉間で列車運行を再開し、上田一上之郷間は代行バスを走らせている。

上田電鉄によると代行バスは地元業者に委託し、同区間を1日39本運行。必要経費は「1日数十万円」という。代行バスの運行は鉄橋が復旧するまで必要になる見込みで、同社は上田市を通じて国の支援を求めている。

支援制度ができれば、通学者を対象に上田一田中（東御市）間で代替バス輸送をしているの鉄道（上田市）も対象になる可能性がある。

柳田市長は佐久市内の道路や側溝、のり面の破損は2516カ所に上るとし、千曲川



上高井郡小布施町の市村長三町長は、床上浸水したが、半壊以上の被害が出ていないため国や県の支援を受け取れない世帯に支払われる10万円の災害見舞金について「町単独でも（増額を）考えるが、県も頑張ってもらいたい」と求めた。

知事は「過去の災害との均衡、財政負担を考慮してもこれ以上は難しい部分がある」と説明。全国から寄せられる義援金を「被災者にできるだけ早く配布する」とした。

災害対応について市町村長からさまざまな意見が出た県と市町村の協議の場は30日、県議会議







信

# 災害ごみの仮置き場 変更

## 佐久市 あすから「勝間園」跡地に

うな沢第2最終処分場隣にある現在の仮置き場。市は11月1日から仮置き場を変更する



佐久市は30日、台風19号に伴う災害ごみの仮置き場を、11月1日から佐久市下小田切の旧老人ホーム「勝間園」跡地に変更すると明らかにした。現在のうな沢第2最終処分場

佐久市は30日、台風19号に伴う災害ごみの仮置き場を、11月1日から佐久市下小田切の旧老人ホーム「勝間園」跡地に変更すると明らかにした。現在のうな沢第2最終処分場

第2最終処分場隣のグラウンド。処分を委託した民間業者の車両が現場で運び出し作業をしていることもあり、仮置き場を変更する。災害ごみのうち、ブロックや土砂などを搬入する市内の宇とう南沢処理場の仮置き場は11月1日以降も継続する。

# 台風19号 千曲川増水で陥没



橋の取り付け部分が陥没して通行止めになっている田中橋=30日午後2時37分、東御市田中



25日から通行止めになった内村橋。丸子地域の中北部と鹿教湯方面を結ぶ

台風19号による千曲川の増水で陥没した真管理の田中橋(東御市)の復旧が年明け以降となる見通しであることが30日、県上田建設事務所(上田市)への取材で分かった。同事務所は「本格的な復旧までの期間を短縮したい」として仮復旧は省略して工事を急ぐ方針。路面の沈み込みが見つかり、通行止めになった真管理の内村橋(上田市)は調査が済んでおらず、復旧のめどは立っていない。



ともに地域の主要幹線。田中橋は上田市丸子地域方面と

東御市方面を結ぶ丸子東部インター線、内村橋は丸子中心部と鹿教湯温泉方面を結ぶ県道荻窪丸子線にある。利用者は別の道路へ迂回し、迂回先が渋滞するといった影響が出ている。同建設事務所整備課によると、田中橋は増水でえぐられた右岸橋台の周辺にコンクリートブロックで護岸を設ける作業に既に着手。護岸完成後に陥没部分を埋め、表面を舗装して本格復旧する。陥没は橋手前の道路部分で、橋そのものは「問題なく使える」(同課)という。工事が大規模で年内復旧は難しい。内村橋は橋脚たもとの調査が終わらず橋への影響が把握できていない。内村橋に近い直売所「あさつゆ」の女性スタッフは「生産者の搬入や常連客の来店にも影響している。早期復旧を期待したい」と話していた。

# 田中橋(東御)復旧年明け以降

## 上田の内村橋はめど立たず



# 被災地を歩く

## 長野市篠ノ井地区 30日



台風19号の記録的な大雨で千曲川の水が堤防を越えてあふれた長野市南西部の篠ノ井地区。被害の爪痕は今もはつきり残り、災害ごみの仮置き場は持ち込まれた家財や家具などが一面に広がっていた。千曲川から直線距離で2キロ離れた篠ノ井塩崎には、災害ごみの仮置き場になっ

### 浸水被害の爪痕今もはつきり

ている篠ノ井運動場がある。30日も使えなくなった家財や家具を積んだ軽トラックが次々と到着。荷台のごみを分別して運ぶボランティアに、軽トラの女性は「あんなに重いもの、と頭を下げた。篠ノ井地区は4.48世帯が床上浸水し、9.9世帯が床下浸水。篠ノ井ツ

柳の作見地区は58世帯全てが浸水したと聞き、区長の月岡英昭さん(68)を訪ねた。「古くは、やっぱり家は落ち着く。別れた千曲川の堤防の斜面にはブルーシートが掛けられ、道路の下をくぐる道(アンダーパス)には泥が厚くたまったままだ。」

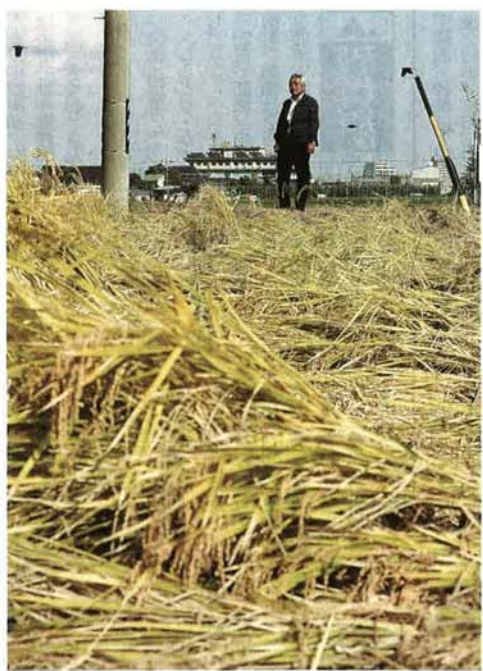
(文・実延運郎、写真・有賀史)



### 災害ごみ 一面に

災害ごみが山積みになった市指定の仮置き場。30日午前10時8分、長野市篠ノ井塩崎の篠ノ井運動場

市指定の災害ごみ仮置き場で仕分け作業をするボランティア。思った以上のごみの多さと、臭いがものすごくと話し、30日午後2時21分、篠ノ井運動場



アンダーパスでは路上の高さにまでたまった泥をバキュームカーと重機で取り除く作業が行われ、作業員は「復旧のめどは立っていない」＝30日午前8時43分、長野市篠ノ井塩崎



収穫前に浸水被害にあった田を見つめる持ち主の西沢忠さん(65)。稲穂まで水に漬かったからもう食べられない。1年の苦労が水の泡だ。＝30日午前11時48分、長野市篠ノ井ツ柳



### 思い出見つめて

床上浸水した小林和子さん(78)の自宅は畳や床板をはがし扇風機で床下を乾かしている。傍らで以前に亡くなった夫との記念写真を見つめていた＝30日午後3時49分、長野市篠ノ井塩崎



床板をはがし、消毒の消石灰で真っ白になった作見公民館。11月20日頃には乾燥を終え床板を張りたいという＝30日午前11時20分、長野市篠ノ井ツ柳



崩れた堤防の斜面にブルーシートが掛けられたままになっている。30日午前9時3分、長野市篠ノ井塩崎



長野市保健所に設置された長野JRA本部でミーティングするメンバー。22日長野JRA本部でミーティング

### 防げ エコノミークラス症候群

台風19号で千曲川の堤防が決壊し、広範囲の浸水被害を受けた長野市で、理学療法士の団体が、避難者やエコノミークラス症候群に悩む人々を支援する活動を行っている。同団体は現在も高野聖を中心とする数百人が避難所に身を寄せ、中心に「足首の運動」を呼び掛けている。

団体は、理学療法士よりハビリテーション科の医師らで構成される大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会「JRA-T」の17日から活動を開始し、避難所での高齢者への個別の運動指導や、

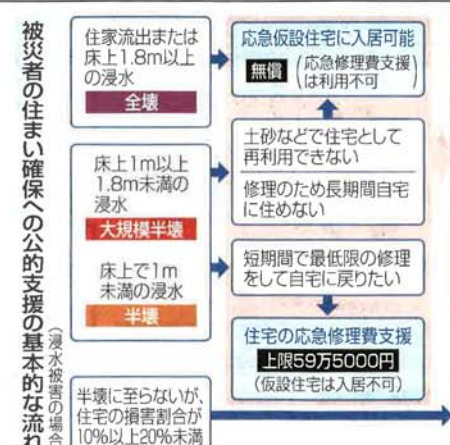
### 理学療法士の団体 長野で呼び掛け

### 避難所生活「足首の運動を」

ラジオ体操を毎日実施している。JRA-Tが長野で活動するのは今回が初めて。エコノミークラス症候群は、狭い環境で長時間同じ姿勢を続けることで足の静脈に血栓が生じ、肺に詰まって呼吸困難などに陥る病気。JRA-Tで活動する松本協立病院(松本市)の理学療法士、三浦一穂さん(46)は、避難所では水分を控える高齢者もいるため、水分不足で血圧が下がるなど、指摘。さらには痛みや熱、腫れなどの症状があれば同症候群の疑いがあり、救急外来を受診するよう呼び掛けている。

同症候群予防のために効果的なのは足首の運動。JRA-Tは1時間ごとに、20、30回行うことを推奨している。避難所ではJRA-Tが行うラジオ体操には高齢者が次々参加。男性76人は、筋肉を伸ばすと気持ちが良い。自分のためだから毎日やると笑顔を見せた。

メンバーで佐々木市立国保健康総合病院の神津美さんは、避難所では今後の生活に対する不安や心配が先立ち、身体の動きが少なくなる高齢者もいると指摘。今後も活動を続け、突然の災害に対応できるように、体制を整えていきたいと話した。



### 台風19号による県内の住宅被害

市町村	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	計(世帯)
長野市	786	797	502	1722	1279	5086
松本市			4		2	6
上田市	1		106	31	99	237
岡谷市			4			4
須坂市	1	188	83			272
中野市			3	82	37	122
飯山市		167	331			498
佐久市	7			130	874	1011
千曲市				475	1202	1677
東御市			3	1	4	8
小海町				4	5	9
川上村					4	4
南牧村			1			2
南相木村		1		1	6	8
北相木村	2	1		2	9	14
佐久穂町				49	58	107
軽井沢町	2	3	4			9
立科町				4	31	35
青木村						1
長和町					25	25
辰野町		2	31			33
箕輪町			6			6
飯島町			1			1
南箕輪町			1			1
麻績村					3	3
筑北村					4	4
坂城町		1	33			34
小布施町				31	28	59
高山村					1	1
木島平村			1			1
野沢温泉村				10	10	20
信濃町		1	4			4
信濃町			4			4
坂城町			1			1
栄村				2	2	4
合計	799	1161	1122	2544	3690	9316

### 台風19号による県内の人的被害

市町村	死亡	重傷	軽傷	計
長野市	2	2	86	90
上田市	1	1	5	6
上田市	1	1	6	6
須坂市	1	1	4	5
中野市	1	1	2	2
飯山市	1	1	4	5
佐久市	1	1	18	19
千曲市	1	1	5	5
東御市	1	1	1	2
川上村	1	1	1	2
佐久穂町	1	1	2	2
軽井沢町	1	1	1	1
箕輪町	1	1	1	1
坂城町	1	1	1	1
合計	4	7	131	142

### 全国で依然8人不明

台風19号の被害は、共同通信の集計で30日までに、死者は13都府県87人(災害関連死亡含む)、行方不明者は8人に上る。同日現在、内閣府によると、低気圧の影響などによる千歳東と福島県での豪雨もあり、3021人が避難所での生活を余儀なくされている。確認された住宅被害は16都府県4700棟、一部損壊が27都府県20982戸で断水している。



# 長野・長沼家や畑が被災

千曲川氾濫から半月余りたった30日。リンゴの里として知られる長野市長沼地区にはなお、濁流に流された軽トラが転がり、水に漬かったまま手つかずの畑が点在していた。多くの農家は自宅も被災。廃業を考える人、再起を期す人、どちらに進むべきか迷う人それぞれに、苦しい実りの季節を迎えている。



背丈より高くにあるリンゴも水に漬かった畑を見て回る田中宏樹さん(右)と克樹さん。30日午後3時53分、長野市赤沼(梅田拓朗撮影)

## 「リンゴの里」岐路の農家

### 廃業か再起か 尽きぬ不安

「もう歳だし、後継ぎもない。やめるしかないかな」。同市穂保に訪ねた米沢孝典さん(81)は、家の片付けをしながら漏らした。自宅隣などの畑約60アが泥や土砂に埋もれてしまった。

長沼村史によると、大町、穂保、津野、赤沼からなる長沼地区は、たび重なる千曲川

### ルポ 千曲川氾濫

の氾濫で養蚕地帯からリンゴ畑は子どものような存在。産地へと変わった。出荷戸数などは「データが水没したところもあり、分からない」(ながの農協)が、アップルラインと称される国道18号沿いはリンゴ畑や直売所の風景が続く。

2代目の米沢さんにとって客から携帯電話に連絡があった。「おいしいリンゴを送ってあげたかった。すみませぬ」。申し訳なきように下を向いた。



荒れ果てたままのリンゴ畑=30日午後4時57分、長野市津野(林克樹撮影)



「教わった技術で目標の務める。滝沢さんは専門学校

目の前に途方に暮れていた。それでも、「この地域の基盤はリンゴ。何とか頑張って続けたい」と話す。

一方、田中さんの幼なじみで近くの滝沢慶祐さん(29)は、リンゴ栽培を続けるかどうかが「正直、迷っている」と明かした。

実家はアップルライン沿いでリンゴ直売所と農園を経営。父の勤さん(60)が代表を